

西宮市議会 3月定例会

くらしよいも大型公共事業優先の2018年度予算案に反対



2月20日西宮市議会3月定例会初日、今村市長が前日提出した退任願が議決されました。“暴言”市長への市民の厳しい批判によるものです。市長不在、施政方針と代表質問なしという異例の予算議会が始まり、松永副市長が市長職務代理者として対応。「骨格予算」との2018年度予算案は、政新会、公明党、市民クラブが賛成、会派ぜんしん、維新プラスは退場、日本共産党は反対をし、賛成多数で可決されました。

佐藤みち子議員が反対討論をしました。要旨を紹介します。

豊かな財政にそぐわない市民サービス

2018年度予算案は、一般会計、特別会計、企業会計の総額は3125億円となり前年度より56億円(1.7%)減となっています。一般会計で投資的経費が増大するものの、国民健康保険特別会計では兵庫県への移管により大幅減となっているからです。市税は給与所得の増や一部企業の業績好調、固定資産税の増などにより、5億7726万円(0.7%)増で、862億円と過去最高に。財政基金の取崩しは計上されているものの、2009年度以降実質的には取崩しておらず、安定的な財政運営を行っており、豊かな財源に見合った市民サービスが提供されていないことが問題です。

UR借上げ市住 被告席にいつまで

まず、URからの借上げ市営住宅からの追い出し訴訟について「高齢者をいつまで被告席にたたせるのか」と厳しく批判、またマイナンバー制度の推進については「個人情報流出を防ぐ手立てがない」と制度の根本問題を指摘しました。

5000人規模の体育館、

12階建ての第二庁舎は規模見直しを！

次に、老朽化した中央体育館の建て替え計画については、「5000人収容の体育館が必要か。プロバスケットボールのBリーグ1部所属の条件が5000人規模。誰のための体育館か。」と計画の再検討を求めました。

また、地上12階地下1階の第二庁舎整備事業については「河野市長時代7階だったものが倍近い高さになり、消防局庁舎がまるまる余るほどの規模は必要ない。しかもリニア談合の大林組との工事契約だ。」と厳しく批判しました。

過大な大型公共事業は今村前市長の負の遺産です。

後期高齢者医療、介護保険で値上げ

国民健康保険、後期高齢者医療保険、介護保険の保険料の引き上げや食肉センターへの約2億円の繰り出しなど各特別会計に反対しました。

長時間残業是正、子ども医療費完全無料制度、保育所待機児童解消等で要望

西宮市役所では、前年度も残業が月100時間を超える職員が51人、80時間超が2ヶ月以上75人と、いわゆる過労死ラインを超える長時間残業が残されており、その原因は過労死ラインを容認する月上限のない目標にあり、改善を求めました。

子どもの医療費無料制度の所得制限撤廃は今村前市長の公約にもかかわらず、ほとんど手付かず。2万5000人もの子どもが対象外に。無料化完全実施を求めました。

保育所待機児童は解消されず、3年で1500人の定員増計画ではメドが立たないことから、民間まかせではなく、公立保育所の増設を強く要望しました。

一般質問は、杉山、まつお両議員

一般質問では、杉山たかひ議員がアドバンスグループに係わる事件、市役所の長時間残業、市道南甲子園線の再整備について、また、まつお正秀議員が、武田尾地域の活性化、食肉センター、民泊条例について、取り上げ、市当局をただしました。

西宮市長選挙・市議補欠選挙(4月15日)

今村市長辞職により4月8日告示、15日投票で市長・市議補欠(欠員2)選挙が行われ、石井登志郎氏が市長に初当選しました。

市長選挙(立候補6名)では日本共産党推せんの上田さち子氏(チェンジ!いきいき西宮市民の会)は4位、市議補選(立候補7名)では日本共産党公認のひぐち光冬は3位、いずれも当選には至りませんでした。

両候補は安倍自公政治を厳しく告発するとともに、憲法を市政のすみずみに生かし、税金の使い方は大型公共事業ではなく、くらし優先に使うことを訴えました。